

第5章 市民が「輝」くまち（教育・文化・スポーツ）

5－1 教育内容の充実

【現況】

- 少子化が進む中、児童・生徒の学力低下やいじめの問題などが顕在化し、学校教育の改革を求める声が高まっています。国はこのような背景を踏まえ、生きる力を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などを重視する「新学習指導要領」を、平成24年度より全面実施しました。
- 平成24年5月1日現在、本市には、幼稚園12園、小学校12校、中学校7校があり、3,050人の園児、児童及び生徒が学んでいます。各園及び学校では、本市に誇りと強い思いを持つ園児、児童・生徒を育むよう、地域性を活かした特色ある教育に取り組んでいます。
- 市立の幼稚園、小・中学校は、少子化の影響などから1学級あたりの園児、児童・生徒数の減少と園や学校の小規模化が続いています。そのことにより集団の機能を活かした教育を進めにくくなっている一方、教職員の配置数の減少により、学校運営上の困難さが増しています。

【課題】

- 本市においても、少子化・高齢化の進行などにより、学校教育をめぐる環境が著しく変化しつつあります。このような状況の中、いかにして児童・生徒の持つ無限の可能性を伸ばしていくかが、大きな課題になっています。また、高齢者をはじめとした地域の教育力を十分に活かすことを通して、園児、児童・生徒を守り育てる環境を実現することが求められています。そのために、家庭・学校・地域社会の連携をより密接にすることが重要です。
- 一方、東日本大震災をはじめとした自然災害での被害や教訓を踏まえ、園児、児童・生徒の防災対応能力の向上が大きな課題になっており、早急な対応が求められています。
- 今後も、学力の向上、本市への誇りと強い思いの涵養、防災対応能力の向上の育成に向けて、本市の特色を活かした教育を一層充実させていく必要があります。また、教職員の責任の重さを改めて認識し、資質・能力の向上に努めていくことも強く求められています。

【施策の目標】

家庭・学校・地域の連携を深めながら、高い学力を身につけ、本市に誇りと強い思いを持ち、あわせて自分の命は自分で守ることのできる園児、児童・生徒の育成を目指します。

指標名	現状値（H23）	目標値（H29）
南房総市一斉学力テストの平均点	73点	80点

【主要な取組】★印は重点プロジェクト施策

(1) 教育の質の向上 ★	教育総務課
児童・生徒の学力向上に向けた取り組みと特別支援教育支援員・教育サポート員などの配置等を推進するとともに、市一斉学力テストの実施とその分析を行い、指導方法の改善や児童・生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を推進します。	
(2) 南房総市への誇りと強い思いの涵養 ★	教育総務課ほか
各園や学校では、地域の人や自然、産業、歴史・文化などを学ぶ「南房総学」を教育課程に位置づけ、教育活動の充実を図ります。また、「日本一おいしいご飯給食」の提供を通して、地産地消※はもとより自産自消※の食育に力を入れ、地域に根ざした教育を強く推進します。	
(3) 防災対応能力の向上 ★	教育総務課ほか
「自分の命は自分で守ることのできる子ども」を具体的な子ども像とし、市内一斉訓練をはじめ、防災計画や防災教育の見直しを繰り返すことにより、防災対応能力を真に身につけることを目指します。	
また、大きな災害時には園児、児童・生徒をすぐに保護者に引き渡すことをせず、安全が確保されるまで何日でも学校で預かることに方針を転換し、保護者や地域住民と共に理解を深めていきます。さらに、学校備蓄品の充足も年次計画で進めています。	



夏季講座での学習風景



給食レストランでの試食会



南房総学の取り組み（ひじき狩り）



放課後学習教室での学習風景

5－2 子育て支援の充実

【現況】

- 本市では、これからまちづくりを担う次世代の健全な育成を目的として、平成22年度から26年度を計画期間とする「南房総市次世代育成支援後期行動計画」を策定し、基本方針や分野ごとの基本目標などを定めて、総合的に取り組みを進めています。
- 核家族や共働き家族の増加により保育ニーズが多様化していることから、就労支援・子育て支援として幼稚園での預かり保育を拡大し実施しています。
- 近年、社会問題となっている児童虐待は、相談件数が年々増加傾向にあり、地域や学校と連携をとりながら対応にあたっています。

【課題】

- 少子高齢化の傾向が今後ますます進むと予測される中で、本市においても少子高齢社会における子育てのあり方を市民とともに積極的に考え、活力ある地域社会を築いていく必要があります。
- 子どもが育つ環境の中で、家庭の果たす役割は重要ですが、子どもたちが健やかに成長するためには、地域社会全体で支援していく必要があり、地域におけるさまざまな人的・物的ネットワークが、それぞれの役割を担いながら、連携と協力をもって子育てを支援していくような取り組みの推進が必要です。

【施策の目標】

国における施策の動向も見据えながら、「南房総市次世代育成支援後期行動計画」に基づき、子育て支援体制の充実などに取り組むことにより、子どもを安心して産み育てられるまちづくりを推進します。

指標名	現状値（H23）	目標値（H29）
地域子育て拠点事業（にこにこひろば）のべ利用者数	5,236人	6,000人

【主要な取組】★印は重点プロジェクト施策

(1) 子育て支援体制の充実 ★	子ども教育課ほか
子育て中のすべての家庭が、社会全体に支えられているという安心感の中で子育てを行うことができ、次代を担う子どもたちが健やかに育つよう、「南房総市次世代育成支援後期行動計画」などに基づき、子育て支援センターを拠点とした取り組みの推進や、児童虐待の防止などを進め、子育て支援体制のより一層の充実を図ります。	
(2) 預かり保育・学童保育の充実	子ども教育課ほか
長期休業期間や幼稚園の保育時間外、小学校においては放課後に、遊び場・生活の場及び学習の場を提供するなど、子どもを持つ親が安心して子育てと就労の両立に努められるよう、預かり保育・学童保育の充実を図ります。	

(3) 幼保一体化の推進

子ども教育課ほか

子どもを持つ親の就労形態や幼児教育に対するニーズの多様化に対応するため、地域の実情や保護者の意向を把握しながら、就学前の教育・保育を一体のものとして捉え、一貫して提供する体制を構築し、幼稚園・保育所の再編成とあわせて幼児教育・保育・子育て支援を総合的・一貫的に支援する、幼保一体化を実施します。

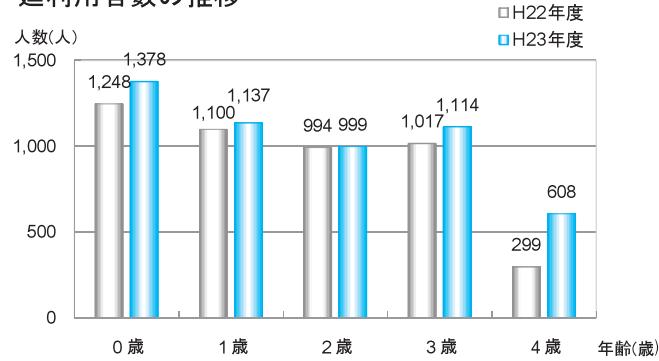
(4) 保育内容の充実

子ども教育課ほか

核家族化の進行や夫婦共働き世帯の増加にともなう、保育に対するニーズの多様化に対応するため、市立保育所の適正な管理運営や、延長保育・一時的保育・病児病後児保育事業などを実施するとともに、民間保育所に対する支援を行うことにより、保育サービスの充実に努めます。

■ 地域子育て拠点事業(にこにこひろば)

延利用者数の推移



出典：子育て支援センター調べ



子育て支援センターで遊ぶ子どもたち

5－3 学校教育施設の整備・改善

【現況】

- 本市では、「南房総市立幼稚園及び小中学校再編計画」に基づき、第1期推進地区の八束小学校と富浦小学校の統合、長尾幼稚園・小学校と白浜幼稚園・小学校の統合、平群幼稚園・小学校と岩井幼稚園・小学校の統合による学校等再編を実施しました。現在は、第2期推進地区へ移行し学校等再編の検討・推進を行っていますが、児童・生徒数の減少が加速していることと、東日本大震災を教訓とした災害などへの対策を踏まえ、計画に沿って再編を行っています。
- 学校施設は、児童・生徒の学習の場、豊かな人間性を育むための場としての役割だけでなく、災害時における地域住民の広域避難場所としての機能も有しているため、学習環境の整備とあわせ、学校施設の防災機能の向上を図るべく必要な施設の維持・改修を行っています。
- また、学校給食では、施設の老朽化及び再編による適正配置を進めながら、「日本一おいしいご飯給食」を目指し、管理・運営及び整備を行っています。さらにスクールバスについては、学校等再編にともない通学支援が必要となる児童・生徒が増加するため、適正な配置などを考慮して維持・管理及び更新に努めています。

【課題】

- 今後とも、集団生活を基本として行う学校教育においては、保護者や地域住民の理解を得ながら「南房総市立幼稚園及び小中学校再編計画」に基づき、児童・生徒の減少への対応を図る必要があります。また、児童・生徒にとって、より良い学習環境を整えるとともに、災害などに対応する学校施設の防災機能の向上のために、地域の実情を踏まえながら、施設の改築・改修及び適正な維持・管理を行う必要があります。
- 学校給食では、安全性はもとより、衛生面及び栄養面、おいしいご飯給食を提供するためにも施設整備や管理の充実に努めるとともに、運営の合理化と施設の適正な維持・管理と整備を行う必要があります。さらにスクールバスについては、児童・生徒の安全管理を優先するとともに、効率的な運行を図るため、民間への業務委託を含め、市内各学校における通学支援基準の平準化を図る必要があります。

【施策の目標】

減少する児童・生徒数への対応と教育環境の充実を図るために、「南房総市立幼稚園及び小中学校再編計画」に基づき、幼稚園、小学校及び中学校などの適正配置を進めます。また、防災機能の向上を目指し、災害に対応できる施設の適正な維持・管理と整備を行います。

指標名	現状値（H23）	目標値（H29）
幼稚園及び小中学校施設数	33 校	18 校

【主要な取組】

(1) 学校施設の整備充実及び適正配置の検討・推進

学校再編推進課ほか

「南房総市立幼稚園及び小中学校再編計画」に基づき、保護者や地域住民の理解を得ながら、学校等の再編を推進し、再編にともなう施設改修や既存施設の有効活用を図っていきます。

(2) 学校給食施設の整備充実及び適正配置の検討・推進

教育総務課

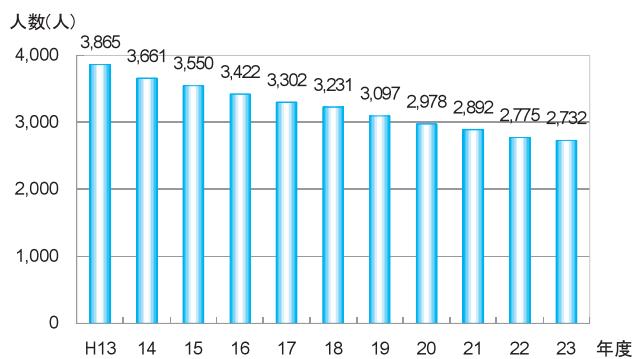
学校等再編にあわせて施設の増改築及び給食センターの廃止を検討するとともに、老朽化施設の改修等を計画的に行っていきます。また、学校給食の効率的・効果的な運営を図るため、すべての給食センターの民間委託化を推進していきます。

(3) スクールバスの適切な運行

教育総務課

学校等再編などにともなう児童・生徒の通学を支援するため、運行管理の民間委託など事業の効率化・簡素化を図るとともに、児童・生徒及び保護者に対し安全・安心な通学環境を提供するため、スクールバスの維持管理と更新を行っていきます。

■児童・生徒数の推移



出典:学校基本調査(文部科学省)



新築された白浜中学校



新築された内房学校給食センター

5－4 生涯学習の推進

【現況】

- 生涯にわたり学びたいという意欲を持った人が年々増えており、その学習内容も多様化しています。そのため本市では、高齢者の豊かな知識や技術・経験を活かした学習機会の提供や、人材バンク「まちの先生」への登録とその活動支援などにより、市民主体の生涯学習環境をつくり、市民協働と公民館機能の一体化に向けた協議を進めています。
- また、「心の豊かさ」を育むため、自然環境と歴史・文化を活用した学習機会を提供し、郷土に対する深い知識と理解と郷土への愛着の結びつけを図るとともに、市文化協会及び各種文化活動団体を支援して、活動の活性化と発表機会の充実を図りました。
- さらには図書館機能の充実を図るとともに、高齢者などの参画を得て、子どもへの読み聞かせ会などの活動を展開してきました。このほか、青少年相談員や子ども会などの社会教育団体においては、子どもたちの自主性を重視した活動を促すなど、青少年の健全育成に努めています。

【課題】

- 学習機会を効率良く提供するため、多目的な機能を有した施設を有効活用しながら、高齢者と働く世代との交流と学習の場とするなど、新たな人と人とのつながりをつくる場が求められます。
- また図書館においては、高齢者などにも配慮した貸し出し体制など、より活用しやすい環境づくりを検討していく必要があります。さらに青少年相談員や子ども会などの活動については、少子高齢化が進む中、今まで通りの活動を維持することが年々難しくなっており、指導者の確保と活動の活性化が課題となっています。

【施策の目標】

郷土の歴史・文化や自然環境、生活への関わりなど幅広い生涯学習講座を開催し、自ら学ぶ生涯学習環境の整備を図ります。また、生涯学習活動を通じて、人と人とのつながりをつくり、新たなコミュニティの構築や生きがいの創出に努めます。

指標名	現状値（H23）	目標値（H29）
公民館定期利用サークル数	185 団体	255 団体

【主要な取組】★印は重点プロジェクト施策

(1) 市民の力を活かした学習機会の提供 ★	生涯学習課
多様な学習機会を提供するため、市民の学習ニーズや高齢者などの知識・技術・経験を把握しながら学習講座を開催するとともに、広報「みなみぼうそう」などにより、生涯学習情報の発信に努めます。 また、各地区に生涯学習推進員を置き、市民自らが参画できる学習機会の提供を図るとともに、市民との協働を進めています。	

(2) 公民館施設などの効果的活用**生涯学習課**

生涯学習環境の整備と施設の効率的・効果的な運営のため、施設の有効活用を図りながら、生涯学習の場の提供に努めています。

(3) 社会教育関係団体などの育成及び支援**生涯学習課**

青少年相談員や子ども会、市文化協会など社会教育団体の活動を支援するとともに、サークル活動の自立化とネットワーク化の推進、指導者の確保・育成に努めます。また、家庭・地域を取り巻く社会教育の一環として、青少年指導の啓発、成人式の開催などを通じて、青少年の健全育成を図っていきます。

(4) 図書館の整備・充実**生涯学習課**

読書に親しむ環境づくりのため、市民がより図書を利用しやすいよう宅配サービスを実施し、図書館及び公民館の利用促進を図るとともに、施設の適正な維持管理に努めます。

また、図書館と公民館との連携により、「地区読み聞かせの会」の定期開催と読み聞かせ連絡会の開催を推進します。さらには、経験豊富な高齢者などの参画を得ながら、指導者となる人材の発掘に努めています。



公民館教室（そば打ち体験）



公民館教室（紅葉ハイキング）

5－5 文化振興と地域文化の醸成

【現況】

- 「心の豊かさ」を追求する潮流の中、文化活動への関心が高まっており、地域の歴史・文化を学び、まちづくりに活用しようとする動きも盛んになっています。
- 本市においては、市内の歴史・文化資源の保存・活用について、郷土史研究会などを中心に関心が高まっています。平成23年度に里見氏城跡岡本城跡が国指定史跡の指定を受け、現在市内には、国指定9件（国登録2件を含む）、県指定30件、市指定181件の指定文化財があります。
- 地域に伝承されている有形・無形民俗文化財の伝統芸能は、少子化・高齢化による後継者不足が顕著になっており、今後の存続が懸念されています。このため、地域文化の継承などを実施する指定文化財保護団体の活動を支援するとともに、文化振興に資するため、人形劇と文楽からなる「南房総市人形劇フェスティバル」の開催や、中学生を対象とした狂言鑑賞教室を開催するなど、伝統芸能に対する知識と理解を深めてきました。

【課題】

- 文化財保護団体の活動活性化を図るため、団体と本市との連携のもとに効果的な支援を行っていくとともに、核となる指定民俗文化財などを決定し、保存・活用方針などを検討する必要があります。
- また、地域に伝わる伝統芸能の伝承、文化・芸術団体による文化活動や文化財の保全活動などを支援し、地域文化を守り育てるとともに、市民の文化意識の醸成を図る必要があります。

【施策の目標】

文化活動団体の活動を支援し、市民が芸術・文化にふれる機会を創出しながら、指定民俗文化財の保全と情報発信などに取り組むことにより、地域文化の保護・育成と市民の文化意識の醸成を図ります。

指標名	現状値（H23）	目標値（H29）
文化財保護団体等数	12 団体	12 団体

【主要な取組】

（1）歴史資源の保存と活用

生涯学習課

南房総ならではの歴史・文化を継承するため、歴史資源の適正な保存を支援するとともに、「公共施設再編計画」に基づき、資料館については既存施設の有効活用を含めた整備を検討していきます。

また、平成24年1月に国史跡に指定された里見氏城跡岡本城跡の整備については、保存管理計画策定のための委員会を設置し事業を推進していきます。

(2) 文化関係団体などの育成・支援**生涯学習課**

地域に伝わる伝統芸能や文化活動の活性化のため、文化財保護団体などが自立運営できるような支援体制を構築するとともに、質の高い文化活動を推進します。

(3) 文化財を活用した情報発信**生涯学習課**

市民が地域の歴史・文化にふれる機会をつくるために、文化財を地域資源として活用し、広く市民活動や学校教育との連携を進めていきます。また、さまざまなメディアを活用して文化財を紹介するなど、市民が本市の歴史・文化をより身近に感じられる取り組みを開いていきます。

■指定文化財

単位：件

	国指定	県指定	市指定	合計
南房総市	9	30	181	220
地域別内訳	富浦地域	1	—	15
	富山地域	—	3	19
	三芳地域	—	5	38
	白浜地域	1	6	33
	千倉地域	3	3	16
	丸山地域	4	12	48
	和田地域	—	1	12
合計				
220				

※国指定には国登録文化財を含む

出典：指定文化財一覧



伝統引き継ぐ白間津大祭

5－6 スポーツ・レクリエーション活動の推進

【現況】

- 健康維持とリフレッシュのために、生涯にわたりスポーツを楽しみたいという人が増えています。国は、平成24年に「スポーツ基本計画」を策定し、スポーツを通じてすべての人々が、幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出を目指として掲げています。
- 本市では、各種スポーツ活動が盛んに行われており、各種スポーツ大会の主催や開催支援のほか、スポーツ推進委員をはじめ体育協会などの団体に対する活動支援を通じ、スポーツ振興を図っています。また、総合型地域スポーツクラブによる、子どもから高齢者までが一緒に気軽にスポーツを楽しめる各種スポーツ教室の開催、軽スポーツ普及を兼ねたイベントの開催など、身近な地域でスポーツを楽しめる環境整備を継続して実施しています。
- 本市は豊かな自然を有しており、このような環境を求めて、多くの団体がスポーツ合宿のために1年を通じて訪れています。このため本市では、スポーツを通じた市民の健康増進に加え、市外からの施設利用者の増加による経済的効果や、交流が盛んで活気あるまちづくり、人づくりなどを促進するため、平成24年度に「スポーツのまちづくり基本計画」を策定し、スポーツを通じたまちづくりの活性化を図っています。

【課題】

- 今後とも、市民の健康増進を図り、生涯にわたりスポーツを楽しめるよう、市民・地域及び社会体育活動団体・行政が連携してスポーツ活動を推進するとともに、今後さらに少子高齢化が進む中で、社会体育活動団体への新たな活動支援を行う必要があります。
- また、「スポーツのまちづくり基本計画」を踏まえ、スポーツ施設の適正な配置と維持管理及びスポーツイベントの効果的な実施により、日頃からスポーツに親しみ、健康づくりや体力づくりに取り組める環境整備を、全市的視点から進めていく必要があります。

【施策の目標】

「スポーツのまちづくり基本計画」に基づき、社会体育団体などとの協働のもとに、スポーツを通じた健康づくりの支援、指導者の育成・確保、スポーツ大会・イベントの効果的な開催により、生涯にわたりスポーツを楽しめる環境整備を目指します。

指標名	現状値（H23）	目標値（H29）
スポーツ団体加入者数	5,978人	6,200人

【主要な取組】★印は重点プロジェクト施策

(1) 各種スポーツ大会等生涯スポーツの推進

生涯学習課

スポーツへの関心と参加の気運を高め、健康づくりの推進を図るため、スポーツに関する啓発活動を実施し、各種スポーツ大会や講習会を開催します。また、体育協会やスポーツ少年団の活動支援と、総合型地域スポーツクラブの育成・支援を推進するとともに、市外の団体等との交流人口を増やし、市民のスポーツ活動を推進します。

(2) 指導者育成・確保の推進

生涯学習課

スポーツの指導者を育成・確保していくため、市民ボランティア、体育協会及びスポーツ推進委員などの連携により、各種スポーツの指導者を養成するための講習会や研修会への参加を支援します。

また、「スポーツのまちづくり基本計画」を踏まえた、スポーツ活動を支える仕組みと組織の構築を推進します。

(3) 既存スポーツ施設の有効活用と拠点施設の整備 ★

生涯学習課

市民が気軽にスポーツを楽しめる場を確保していくため、体育館など既存スポーツ施設の有効活用とスポーツ・レクリエーション施設の適正な維持管理に努めます。

また、「スポーツのまちづくり基本計画」に基づき、スポーツ施設の機能向上などを図りつつ、市外からスポーツ合宿や各種スポーツ大会を誘致し、新たな需要を取り込むスポーツ交流拠点施設の整備を推進します。



小野派一刀流流祖忠明旗争奪関東小学生剣道大会



南房総市ロードレース千倉

